

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／井上 奈穂

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

昨年度は、学校現場に通用する教育実践力の育成を意識した授業をおこなった。昨年度の課題として、基礎的・基本的な内容理解を保障する上での工夫の必要性が挙げられた。以上を踏まえ、本年度は、基礎的・基本的な場面を充実させ、高度専門職業人としての基礎的・基本的な知識の保障と教育実践力、双方のバランスの取れた育成に努めたい。

2. 点検・評価

今年度は、以下の研究会及び学会での研究発表を行った。

(前期)

- ・「鳴門教育大学における教員養成の実践報告－2010年度及び2011年度前期の実践から－」(社会認識教育学会研究会「教師教育の現場から見た社会認識教育学の課題」報告, 2011.10.07)
- ・「社会系教科における学習支援の方略－授業実践「制度について考えよう」を事例に－」(日本社会科教育学会, 第61回全国研究大会(北海道教育大学大学)自由研究発表, 2011.10.23)

その他として、鳴門教育大学附属小学校における研究会(6月)に参加し、助言等を行った。

(後期)

- ・「教員養成におけるフィードバック過程を意識した授業開発・実践」(日本教科教育学会, 第37回全国大会(沖縄大学)自由研究発表, 2011.10.23)

その他として、鳴門教育大学附属小学校における研究会(2月)での、指導助言及び社会系教科教育学会(2月19日於兵庫教育大学)の自由研究発表の司会を務めた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ・授業時間外においても可能な限り時間を取り、学生が質問等をしやすい状況をつくる。
- ・学生が主体的に学ぶ環境づくりに努める。
- ・担当学年である1学年を中心に、学校生活について相談があれば、随時相談にのり、充実した学生生活が送れるように支援していく。

2. 点検・評価

授業後、学期末等を利用し、学生とのコミュニケーションに努めた。
ライブキャンパスにワークシートをアップし、学生が授業の復習が出来るような手立てを行った。
教員採用試験の対策及び就職のことなどについて、相談にのった。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

・自らの専門である社会科教育分野における評価に関する研究について、学問的な見地を踏まえた論文、研究会での発表等を通して積極的に発信する。
・附属学校等の研究会に積極的に参加し、自らの専門分野を踏まえた助言等を通して、教育現場におけるアップデートな社会科教育に資するよう心がけたい。

2. 点検・評価

全国社会科教育学会、日本社会科教育学会、日本教教育学会、社会系教科教育学会に参加し、他大学の研究者及び実践家と意見交換を行った。

鳴門教育大学研究紀要に井上奈穂「授業者による学習評価の論理―「決定・判断」を基盤とした授業の場合―」を投稿し、鳴門教育大学授業実践研究に「小学校社会科における習得・活用型授業の構想と展開―単元「住民の政治参加」の場合―」を共同で投稿した。

また、鳴門教育大学附属小学校・中学校及びお茶の水女子大学附属小学校の研究会に参加し、授業実践についての知見を深めた。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

・就職委員、2学年担任など、委員会等における職責を誠実に果たすことができるよう尽力する。

2. 点検・評価

就職委員、1学年担任として、以下の点に於いてその職責を果たすよう尽力した。

・就職委員：
模擬個人面接(5月)、模擬集団面接(11月、2月)に面接官として参加した。
卒業予定者・修了予定者の進路の把握に努めた。
・2学年担任：
キャンプの引率者として、今後の仲間作り・就職への意識作りを行った。
学修キャリアノートの点検等を行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ・附属小学校, 中学校の研究会に積極的に参加する。
- ・大学と地域・社会との交流・連携を積極的に行う。

2. 点検・評価

- ・6月, 2月に行われた附属小学校の研究会に積極的に参加し, 指導助言を行った。
 - ・香社研で, 小学校の先生方を対象とした「社会科における学習評価の在り方」についての講演を行った。
 - ・学部3年生, 大学院生の教育実習を参観し, 学生への指導・助言を行った。
 - ・大学院の授業で開発した授業の実践を南井上小学校で行った。
 - ・12月, 3月に大学院の授業の一貫で, 兵庫県と香川県の高等学校で授業見学及び検討会を行わせていただいた。
- 以上の活動を通し, 教員, 院生, 小学校の先生方との意見交流の場を持つことが出来た。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

今年度は, 着任二年目ということで, 本学の組織及びシステムの理解を踏まえた職務・職責の遂行が課題であった。昨年度と比べ, 発展的に職責を遂行することが出来, この課題はおおむね達成できたと言える。来年度は, この経験を踏まえ, 教育, 研究, 社会貢献の面で, より本学へ貢献できるよう心がけたい。